～社会福祉施設等での感染性胃腸炎対策～

施設利用者が突然 おう吐したら…どうしますか？

監修：前金沢大学附属病院感染制御部長 藤田信一

突然のおう吐には、ノロウイルスによる『感染性胃腸炎』かも？と疑った対応が大切！
適切な対応には、ノロウイルスの感染力を知り、日頃からの準備が必要です

「感染性胃腸炎」の基礎知識

原因

多種多様の原因によるものを包含する症候群
病原体がノロウイルスによるものは1年中発生するが、特に冬季に流行する
春のピークはロタウイルスによる
冬季に「お腹に付いた風邪」と言われるものは、ウイルス性の感染性胃腸炎であることが殆どである

潜伏期間

ノロウイルスは1～2日であることが多い

主な症状

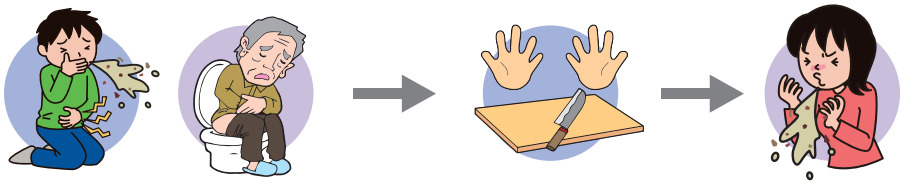
吐き気、おう吐、下痢が主症状
腹痛、頭痛、発熱、倦怠感を伴うこともあれば、おう吐だけの人、下痢だけという人もいる
数日の経過で快方に向かう
乳幼児や高齢者、体力が弱っている人のおう吐による窒息や、おう吐・下痢による脱水には注意が必要である
ノロウイルスは症状が消失した後でも数日から1か月近く便中に排出される

治療

ウイルスに有効な薬剤はなく、症状を緩和する対症療法のみである

感染経路

ノロウイルスに感染した人のおう吐物や便からの接触感染



ノロウイルスの加熱処理が不十分な食品を口にする経口感染
感染者がおう吐した時に周囲にいた人への飛沫感染
ノロウイルスが乾燥すると空中に漂いこれが口に入っての塵埃感染

ウィルスの特徴

ウイルスの活性を失わせるには、85℃以上で1分以上加熱する又は
次亜塩素酸ナトリウム消毒液が有効（エタノールや逆性石けんはあまり効果がない）

感染した人のおう吐物や便には無数のノロウイルスが存在します！

- 回復した（症状が消えた）後も便にはウイルスが排出される
- 感染しても症状がでない場合（不顕性感染）でも便に大量のウイルスが排出される
- ノロウイルスは少量のウイルス（100個以下）で感染する【1グラムあたりのウイルス量…便：10^9個、おう吐物：10^6個】
- きれいな環境より汚れた環境で長く生存し、低温かつ乾燥していない場合は3週間以上の生存を確認
- 水まわりはノロウイルスには生存しやすい環境

金沢市保健所・金沢市感染症対策支援ネットワーク運営委員会

「感染性胃腸炎」を拡げないために

1 日頃の備え

地域の流行について情報を入手していますか？

金沢市保健所ホームページから入手できます　金沢市　感染症情報　検索

また、保育所や学校での流行は地域の状況を反映することが多いので、子どものいる職員からの情報も入手しましょう

ノロセット（おう吐物処理用物品一式）の準備と定期点検はしていますか？

いざという時に慌てないために、おう吐物処理の方法をシミュレーションしておきましょう

2 手洗い

丁寧に行っていますか？

手についた病原体を洗い流すには、
石けんと流水で30秒以上が必要です
洗い方を確認できるように手洗い場にポスター等を貼っておきます
手拭きタオルは共有してはいけません

ポスターは金沢市保健所ホームページから入手できます

金沢市　手洗いポスター　検索

どんな時にしますか？

・食事前　・調理前　・配膳前
・トイレ後　・排泄介助後
・施設に入る時（施設外から持ち込まない）　・帰宅時

手洗いポスターを確認しながら洗おう！

3 あらかじめ決めておく

おう吐物がついた衣類は？

二次感染防止のために、原則、廃棄します

おう吐物が付着した食器は？

おう吐物をできるだけ除き、蓋付き容器の中の0.02％次亜塩素酸ナトリウム液に十分浸して、次の下膳の時に食器を取り出して厨房へ下げます
厨房に病原体を持ち込まないようにします

おう吐物が付着していない食器の消毒は？

自動食器洗浄器（80℃10分間）又は洗剤による洗浄と熱水処理後に乾燥します

消毒の回数やタイミングは？

発症者がいる場合は、誰もが触る箇所を0.02%次亜塩素酸ナトリウム液で環境消毒を行います
食事前は手洗い場を中心に行い、手すりなどは1日1回以上行います

症状がある人は？

症状がある間は接触を避けます
入浴は、症状がある間は控えます
症状消失後も便に病原体が排出している可能性を考慮し2週間程度はシャワー浴などの対応が望まれます
トイレと手洗い場は専用にするか使用後に消毒します
便の処理が自分でできる人は、症状がなくなれば普段どおりの生活に戻します
便には病原体の排出が継続していると考え、排便後は手首までしっかり手洗いをします

面会や行事は？

流行期は、病原体が持ち込まれることを防ぐため、面会や行事を控えます
感染が拡がっている間は、拡大を防ぐため、面会や行事を制限します
制限を解除する基準は新たな発症者が1週間出なかった時、消毒を終了する基準は最後の発症者が回復してから4週間経過した時など利用者の状況に応じて決めておきます

おう吐した人の家族への指導は？

おう吐時の対応、排便の処理、手洗いの徹底などを説明します

職員に症状があるときは？

症状がある間は休みます

「感染性胃腸炎」のおう吐物処理

1. 準備　ポイントをおさえておく

ノロセットを右図を参照し用意しておきます
個人防護具を着用して、迅速かつ正確な処理を行うため、日頃から練習しておきます
おう吐物の周囲2メートルは汚染エリアと考え、適正に消毒します

ノロセットの用意

- 使い捨てマスク
- 使い捨て手袋
- 使い捨て袖付きビニールエプロン
- ペーパータオル
- 使い捨て布　※十分な枚数が必要
- ビニール袋
- 次亜塩素酸ナトリウム
- その他必要な物品

いざという時にすぐに使えるように、
専用の蓋付き容器に用意しておく

感染を拡大させないためのポイント

- おう吐物の周囲2メートルでは飛沫感染を防ぐため、マスク着用が重要である
- 汚染エリアから非汚染エリアへの移動時は汚染エリアに接触した物品の底面を消毒する
- 非汚染エリアにノロセットを配置して補助してもらい、処理を素早く行う
- 個人防護具は、正しく着脱し、汚染した場合はその都度交換する
- 手袋を外した後は、石けんと流水で 30 秒以上かけて、手首までしっかりと手洗いをする
- 塵埃感染を防ぐため、掃除機は使用しない

消毒薬のポイント

- 液体、泡タイプ、粉末があり、施設に応じたものを用意し、噴霧しない
- 経過とともに力価が下がるため、希釈したら使い切る、高温を避け日光があたらないようにする
- 適切な濃度にすばやく希釈できるように、消毒液の作り方を表示しておく
- おう吐物や便などの有機物があると効果が低減する
- おう吐物が取り除きにくい場合は、0.1％以上の次亜塩素酸ナトリウム液と10分以上の接触をさせる
- 消毒後は窓を開け換気する
- 次亜塩素酸ナトリウム液の使用が難しい場合は熱消毒する
（カーペットなどはスチームアイロンで2分間以上しても、長毛では必要温度に達しない場合がある）
- 酸素系漂白剤は効果がない

次亜塩素酸ナトリウム液の作り方（例）

５％次亜塩素酸ナトリウム液を使用する場合

※作成時は手袋を着用すること
※消毒液容器キャップ内側10mLラインで計量

便・おう吐物が付着・・・・・0.1％
　・消毒液10mLに水を入れ、できあがり500mL
　・消毒液40mLに水を入れ、できあがり2L
床・手すり等環境・・・・・0.02％
　・0.1％を５倍に希釈する
　（0.1％500mLに水２Lを加える）
　・消毒液10mLに水を入れ、できあがり2.5L

個人防護具着衣のポイント

着衣順

① 袖付きビニールエプロン→ ② マスク→ ③ 手袋

- おう吐物周囲2メートルにいた時は、飛沫感染を防ぐため、まずマスクを着用する
- 手首が露出しないように、手袋でエプロン袖口まで覆う

個人防護具脱衣のポイント

脱衣順

① 手袋→ ② 袖付きビニールエプロン→ ③ マスク

●手袋
- 手首あたりの外側をつまんで、中表にするように片側の手袋を外す
- 手袋を外した手の指先を、もう片方の手首と手袋の間に滑り込ませ、引き上げるように2枚ひとかたまりに脱ぐ
- 手袋を外す際に手首が汚染しないように十分に注意する

●袖付きビニールエプロン
- 首ひもをちぎって外し、肩が見えるまで引き下げる
- 内側を反対側の手で引き下げるようにし、袖を脱ぐ
- 足元から腰の方へ、中表になるように巻き上げる
- 腰紐をちぎって外す

●マスク
- マスクの表面は触らずに、ゴム紐をつまんで外す

※個人防護具を入れたビニール袋は封をする

参考動画
「施設の感染性胃腸炎対策は万全ですか?」
金沢市　施設向け動画　検索

2. 処理手順　処理する人、補助する人の連携ですばやく対応する

最初に、おう吐した人の健康観察と安全確保をします
（おう吐物で気道がふさがっていないか？会話できるか？呼吸と意識に問題ないか？等を確認）
感染性胃腸炎を疑い、感染対策の必要性と検査や受診について説明します
着替えは、おう吐物をできるだけ取り除いてから、安全な場所で行います
（おう吐物が付着した衣類で移動した範囲は着替えた後に消毒）

参考資料：高齢者介護施設における感染対策マニュアル（平成25年3月）厚生労働省

3. 施設の環境消毒　おう吐物処理後すぐに行う重要なこと

もしかしたら、最初におう吐した人は、施設の中で感染を受けた人かもしれません
すなわち、ドアノブや手すりを介した接触感染が原因だった可能性があります
消毒は、病原体が付着している可能性があり、手を触れやすい箇所を行います

手すり

スイッチ類

エレベーター

窓の鍵

トイレ利用時に手が触れる箇所

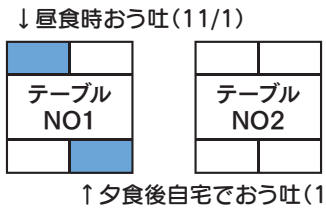
4. 周囲の人の健康確認　現場が一段落したら行うこと（おう吐した人が職員の場合も含む）

感染が拡がらないようにするために、感染源、感染経路を把握して対策を立てます

感染経路を把握するために

おう吐した場所を施設の見取り図にマッピングし、
利用した人から新たな発症者がいないか経過を観察します
また、おう吐した時に周囲2メートルに人がいなかったかを確認し、もしいたらその人は2日間程度の健康観察が必要です
おう吐や下痢症状が出現したらすぐに対応と消毒ができるようにしておきます

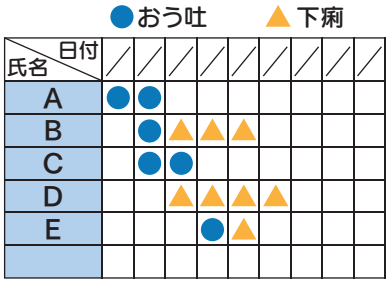
〈食事テーブルの配置図〉



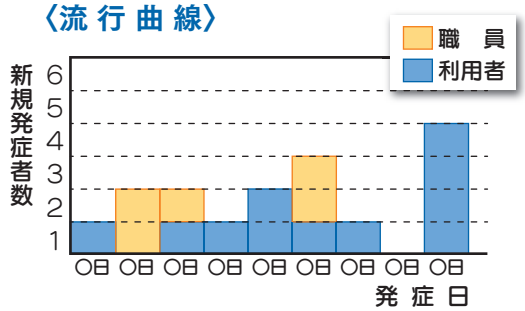
感染の拡がりを把握するために

発症者の推移を観察するために、日を追った一覧表を作成します
感染状況は、流行曲線を作成するとわかりやすくなります

〈一 覧 表〉



〈流 行 曲 線〉



ピークが一つであれば終息です

新たな発症者がいないことを1週間程度確認しましょう
だらだら続いている時は新たな感染が継続している可能性があります
山が二つになると、二次感染が起こっていることを示します
いずれの場合も環境消毒と手洗いを強化しましょう

トイレでおう吐した時、おう吐物を発見した時、どうしますか？

仕事中にトイレでおう吐してしまった時、施設利用者から「おう吐した」と申し出があった時、見回りでおう吐物による汚れを発見した時など、その対応が不十分だと感染拡大を招きます
うがいや手洗いで汚染した可能性のある手洗い場も忘れずに消毒します

手順は 2. 処理手順 と基本的に同じですが、狭い空間のため以下の留意が必要です

便器の中におう吐した時は、便器以外にもおう吐物は飛び散っています　個室内はしっかり消毒します
作業をすばやく行うために補助が必要です

送迎中におう吐した時、どうしますか？

あらかじめ、同乗者全員の安全を最優先にした送迎車のタイプ別の対応手順を決めておきます
送迎車ごとに車内の対処に必要な物品を配置しておきます
乗車前の体調確認では大丈夫だった人が突然おう吐した時には、新たな感染者を増やさないために別便で送迎するなど、対応を行います

送迎車内での飛沫感染を防ぐポイント

- まず、おう吐物を使い捨ての布や紙で覆う
- 同乗者と職員は、感染リスクを減らすためマスクを着用する
- おう吐物はできるだけ取り除き密閉する
- 窓は一連の処理が終わった後に開ける

送迎車内での対処に必要な物品

- おう吐物を覆ったり取り除くための使い捨ての布や紙
- 同乗者用のマスク
- 取り除いたおう吐物を密閉するビニール袋、紙袋
- 個人防護具
  ※消毒薬は施設用ノロセットのものを使用

手順は **2. 処理手順** と基本的に同じですが、車内全てが汚染エリアのため以下の留意が必要です

送迎車では すばやい応急処置と事務所への連絡

施設では 送迎変更の手配、個室対応やコホート対応

おう吐者の体調、家族の状況に応じて臨機応変に対応します
同乗者の靴底消毒、手洗い、着替えの準備をします
同乗者とその他の利用者を可能な限り別室とします

**送迎車の消毒は施設に戻ってから、車椅子も含めて行います
外側ドアノブも忘れずに**

おう吐者対応

車内で着替えるのが望ましい
施設内で更衣などを行う時は個室対応
おう吐物が付着した衣類は二重ビニール袋に密閉し、原則、廃棄
体調に応じ、自宅療養や受診の手配

同乗者とその家族へ対応

洋服におう吐物が付着した可能性があるため着替える
着替えが終わるまで他の人と接触しないよう配慮
２日間の健康観察（職員も含む）
同乗者の家族に依頼（健康観察、サービス利用中止の検討、おう吐時の対応など）

平成27年9月発行：金沢市保健所地域保健課　（金沢市西念3丁目4番25号 TEL076-234-5102）
※金沢市保健所ホームページから入手できます
金沢市 感染症予防 検索